

舞鶴から希望の京都をつくろう！ ～地域力の創造と市民の幸せを目指す～

京都府議会議員

池田まさよし 通信

発行：池田まさよし事務所

【第31号】

〒624-0853 舞鶴市南田辺71番地1 TEL:0773-77-1722 FAX:0773-77-1723 ホームページ <http://www.ikedakai.net>



京都府議会議員

池田正義

ご挨拶

はじめに、7月1日からの大雨により静岡県熱海市で土石流が発生し、多くの尊い命や家屋が巻き込まれるなど大きな被害が発生しました。被害に遭われました方々に心からのお見舞いを申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染対策など医療・看護の第一線で懸命の御奮闘を続けてくださっている従事者の皆様、営業時間短縮などの要請に応じていただいている事業者の皆様、ワクチン接種に奔走されている自治体関係者やスタッフの皆様をはじめ、新型コロナウイルス感染症と闘う全ての府民の皆様に、心よりの敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、第4波と呼ばれる感染急拡大は乗り越えたものの、新規陽性者数は下がり切らない状況が続く、デルタ株をはじめ変異株が広がりを見せるなど、「次なる脅威」が差し迫っていると看做しても過言ではないことから、感染の再拡大、リバウンドを何としても防ぐため、感染症対策の基本に立ち戻り、「マスクの正しい着用」、「密閉、密集、密接の「3密」回避」など、お一人お一人が「うつらない、うつさないための行動」を徹底していただきますよう、改めてお願いを申し上げます。

今回の補正予算案につきましては、今定例会に報告された「新型コロナウイルス感染症危機克服会議」の提言を踏まえ、コロナ禍により非常に厳しい状況に直面する中小企業をはじめ、事業者の皆様の新たなビジネスモデルの創出や販路開拓、事業者間連携などの取組を支援するための経費のほか、感染防止対策を遵守する飲食店で利用可能なランチクーポン券の発行による、安心・安全な環境づくりの促進、医療・療養体制の充実や生活困窮者自立支援金の給付といった府民の安心確保。先に議決した営業時間短縮の要請に係る協力金等とあわせ、足下の感染症対策から府民生活の下支え、ポストコロナを見据えた事業者支援など総額310億9,700万円であります。

今後とも、国、府、市連携のもと地域課題解決のため取組んで参りますので皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

5月臨時議会で、自民党議員団代表幹事に就任し、議会運営委員会理事、文化・教育常任委員会委員、魅力ある地域づくりに関する特別委員会副委員長として活動することになりました。

令和3年度6月補正予算の概要 総額310億9,700万円

【6月17日提案分】 38億6,300万円

- ◆中小企業のレベルアップや販路開拓等をパッケージで支援 6億800万円
- ◆医療・療養体制の確保や入院医療費等の公費負担費用積み増し 15億7,600万円
- ◆地域公共交通の安心確保や府指定文化財等所有者への支援 1億1,200万円
- ◆無利子融資の利子補給費用の積み増し 15億円

【6月24日提案分】 272億3,400万円

- ◆営業時間短縮の要請に協力いただいた事業者への協力金等 226億5,400万円
- ◆安心・安全なコロナ対策に取り組む飲食店への支援 3億6,000万円
府民が府内飲食店で利用できるランチクーポン券を発行
- ◆安心・安全な地域観光への支援 40億円
府民による府内観光に対する割引及びクーポン券発行の支援

「歯と口の健康づくり推進条例」改正案を全会一致で可決！

私が所属する理事調整会議で改正案を検討し、1か月足らずというスピードで全会一致での改正を実現しました。コロナ禍での府民の口腔環境の悪化や機能の衰えを防ぐため、歯科健診の受診の促進を図る取組を進めます。



京都府歯科医師連盟から要望書を受領し意見交換

全会一致で、可決された決議

■京都府域の活性化に向けた地域鉄道の維持・充実を求める決議

6月定例会 代表質問に登壇（質問と答弁の概要）

私たち自民党議員団は、府政課題に対し3人で知事に対し代表質問をしました

1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

【質問】 感染拡大の第4波では、変異株の影響で全国的に感染が拡大し、重症患者が急激に増える中、京都府もピーク時には高度重症病床の使用率が81.6%に達するなど、一時は厳しい状況にあったが、入院コントロールセンターを核に効率的な病床運営を行い、医療崩壊を防いだ。第4波の取組の評価と今後のリバウンドを防ぐ取組方策はどうか。

また、10代から30代までが感染者の半数以上を占めるなど、若い世代の感染拡大を防ぐことが大切。若い世代が重症化リスクを認識し、感染予防の意識を高め、感染拡大を防ぐための行動に移すよう周知・啓発が重要と考えるがどうか。

【西脇知事答弁】 第4波では、感染拡大の波を早期に捉え、見極めたうえで、早め早めの対策として、4月12日から「まん延防止等重点措置」、4月25日から「緊急事態措置」を実施し、府民の皆様幅広いご協力を頂きました。その結果、人手が多くなるゴールデンウィーク期間中や週末などにおいて人流を抑え込むとともに、感染リスクの低減に繋げることができました。また、変異株の影響により感染拡大の

スピードが以前の波よりも格段に速く、病床が逼迫しましたが、入院コントロールセンターによる一元的な入院調整に加え、退院基準を満たした方を受け入れていただく療養支援病床の確保や陽性者外来での検査実施などにより、何とか対応してきました。有効なツールとして活用していくことが重要です。こうした新型コロナウイルス感染症によって気付かされ、学んだことを前向きにとらえ、新たな時代の京都づくりに生かしていきます。

若者に感染防止対策の重要性を認識して頂くため、府内の大学に対して全学生への一斉注意喚起を要請したり、LINEなどのSNSを活用した若者向け情報発信に取り組んできましたが、今後とも、若い世代に向けて効果的な情報発信に努めます。



6月定例会での代表質問の様子

裏面へ続く

2. POSTコロナに向けた京都府政のあり方について

【質問】「総合計画に掲げる将来像である『一人ひとり夢や希望が全ての地域で実現できる京都府』を目指していかなければならず、コロナ後の社会を、単にコロナ前に戻るのではなく、コロナ前よりも進化した社会にしていく、という強い思いで、明るい未来の京都づくりに取り組んでいく。」とされているが、感染症が社会に大きな影響を与え続ける中、総合計画に掲げる京都の将来像をどのように考えているのか。また、府民の夢や希望、期待に応えるためにも、令和5年度末に期限を迎える取組方策について、更にレベルアップすべきと考えるがどうか。

【西脇知事答弁】 コロナ禍においては、感染症に対する社会の脆弱性が浮き彫りとなったほか、リアルな活動が制約されたことにより、閉塞感・孤立感の高まりや、非正規・ひとり親世帯へのしわ寄せなど、様々な影響が生じていますが、同時に、人と人とのつながりや共感の重要性、本物に触れることの価値が再認識されてきています。また、コロナ禍でテレワークやオンライン会議の普及・定着が進む一方、デジタル化の遅れが明らかになり、今後、新しい生活様式や産業様式を支えていくことに加え、人口減少・少子高齢化や激甚化する災害への対応といった社会課題を解決していくうえでも、デジタル技術を有効なツールとして活用することが重要です。こうした新たな気づき、学んだことを前向きにとらえ、新しい時代の京都づくりに生かしていきます。さらに、POSTコロナ社会を見据えた施策全体の在り方については、令和5年度末に縛られず次期改定に向け、しっかり検討を進めます。



舞鶴でのコロナワクチン接種会場風景

3. 大学改革等推進本部の取組について

【質問】 府立2大学については、老朽化した校舎や附属病院施設の改築が喫緊の課題であるものの、まずは、その前提となる、将来の大学の在り方や果たすべき役割を明確にすることが重要と考えるが、京都府立大学の改革の方向性、教育・研究環境の充実に向けた学科再編の検討状況等はどうか。また、京都府立医科大学及び附属病院の課題と、将来果たすべき役割・機能強化についてどのように考えているのか。今後の整備スケジュールはどうか。

【西脇知事答弁】 地域や社会の知の拠点として、住民の生涯学習や多種多様な主体の活動を支えると同時に、地域や社会の課題を解決し、地域活性化につながる新たな価値創造への積極的な貢献が求められています。このため、府立大学の強みである「農」や「食」、「森林保全」等の学問領域や研究分野の更なる強化に取り組むことにより、食糧危機や気候危機をはじめとする社会的課題の解決や、ソサエティ5.0と呼ばれる超スマート社会の到来に対応した「AI・データサイエンス」分野の人材育成など、府民の期待に応えられる学科再編案を検討しています。

京都府立医科大学は「世界のトップレベルの医学・医療を地域へ」との基本理念のもと、高度急性期医療を担う特定機能病院として、京都府の医療を支えてきました。しかしながら、今後のさらなる医学・医療の発展のためには、高度医療の核となる、附属病院の中央診療施設や北部医療センターの老朽化への対応、大学及び附属病院としての役割の明確化と医療体制の規模の最適化が課題です。こうした中、今年度から専門的かつ最適なチーム医療を提供するなど高度医療における機能強化を進めることで、高度かつ安全な教育・研究・医療を提供する、府民に信頼される大学及び附属病院としての役割を果たしていきます。このため、今後、附属病院として担う機能を明確化し、必要な運営体制などを調査したうえで、施設全体の整備計画を策定していきます。



京都府立大学

4. 京都の未来を切り開く港や道路整備について

【質問】 京都舞鶴港の拡張整備については環境に配慮したサプライチェーンの拠点としての役割も期待されるが、カーボンニュートラルポートに向けた取組方策はどうか。また、港と関西各地を結ぶ道路網の充実・強化が重要。本年3月には舞鶴若狭自動車道の福知山・綾部間の4車線化事業が完成したが、引き続き舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の全線4車線化、山陰近畿自動車道の未着手区間の早期事業推進が求められる。京都舞鶴港の魅力を高め、北部グローバル構想に基づく地域振興に不可欠な幹線道路網の整備について、現状と今後の取組方策はどうか。

【西脇知事答弁】 国において第2バースの事業着手が決定し、令和7年度の供用開始に向け整備が進められます。京都府においても国際ふ頭の2期整備に着手します。全体の完成には相当の期間を要しますが、進捗段階に応じたふ頭利用の工夫やポートセールスに取り組んでいきます。全国の重要港湾以上の125港を対象とするカーボンニュートラルポート形成計画の策定を通じ、立地する発電所でのCO₂排出削減や荷役機械への燃料電池導入など、脱炭素社会に向けた取組を推進します。

また、幹線道路網の整備についてですが、現在、港湾道路上安久線、国道27号西舞鶴道路を国において建設中であり、京都府としても用地取得に全力で協力し、早期の開通を目指します。さらに、山陰近畿自動車道の早期整備や、舞鶴若狭自動車道舞鶴西・舞鶴東IC間及び京都縦貫自動車道の4車線化に地元市町と連携して取り組んでいきます。



4車線化された福知山～西舞鶴間

5. 医療的ケア児支援について

【質問】 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が成立したが、この法律は国や自治体の責務を明文化し、医療的ケア児が住み慣れた地域で支援を受けられる体制を整え、障害の有無に関わらず教育や保育を受ける権利を保障するものである。また、各都道府県は支援センターを設置し、医療的ケア児の家族からの相談に応じるなど、必要な情報提供を行い、医療や福祉、教育、労働関係機関と連携しながら切れ目のない支援を行うとしているが、京都府では今後どのように取組むのか。

【西脇知事答弁】 この法律は、国や地方公共団体の責務を明確にし、支援体制の地域格差の是正や家族の負担軽減を図り、医療的ケア児の日常生活・社会生活を社会全体で支える体制づくりを進めるものです。京都府としても、国の制度設計の動向を注視しつつ、速やかにセンターの設置に向けた調整を開始し、専門性の高い相談支援体制の整備、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携促進、在宅医療の総合的な調整を行う医療的ケア児等コーディネーターの育成等を進めます。

【教育長答弁】 市町村教育委員会に情報提供し、看護師等の専門人材の確保や体制整備、安心して通学できる仕組づくりについて、今後設置される医療的ケア児支援センターを中心に取組を進めます。学校体制の整備に必要な人材の確保に必要な財政措置を国に要望します。



京都府立舞鶴支援学校

池田まさよし事務所 ご案内

西事務所

(舞鶴市南田辺71番地1)



TEL(0773) 77-1722 オープン時間 10:00~16:00
 FAX(0773) 77-1723

東事務所

(舞鶴市森本町29-5)



TEL(0773) 77-5670 オープン時間 10:00~16:00
 FAX(0773) 77-5671
 ✉m.iked@kyotofugikai.jp

お気軽にお立ち寄り下さい



ホームページで池田まさよしの活動報告をご覧ください



市民の皆様からのご意見・ご質問も受け付けております。

府議会広報番組(KBS京都)に出演します!

府議会cafe京都

8月1日(日) 午前10時30分~11時

(再放送 8月7日(土) 午前2時~2時30分)

○代表質問者インタビュー等

出演: 池田正義 他

